

農業者の所得増大・農業生産の拡大等に向けた  
JA自己改革の実践事例 III

---

平成30年2月

宮城県農業協同組合中央会

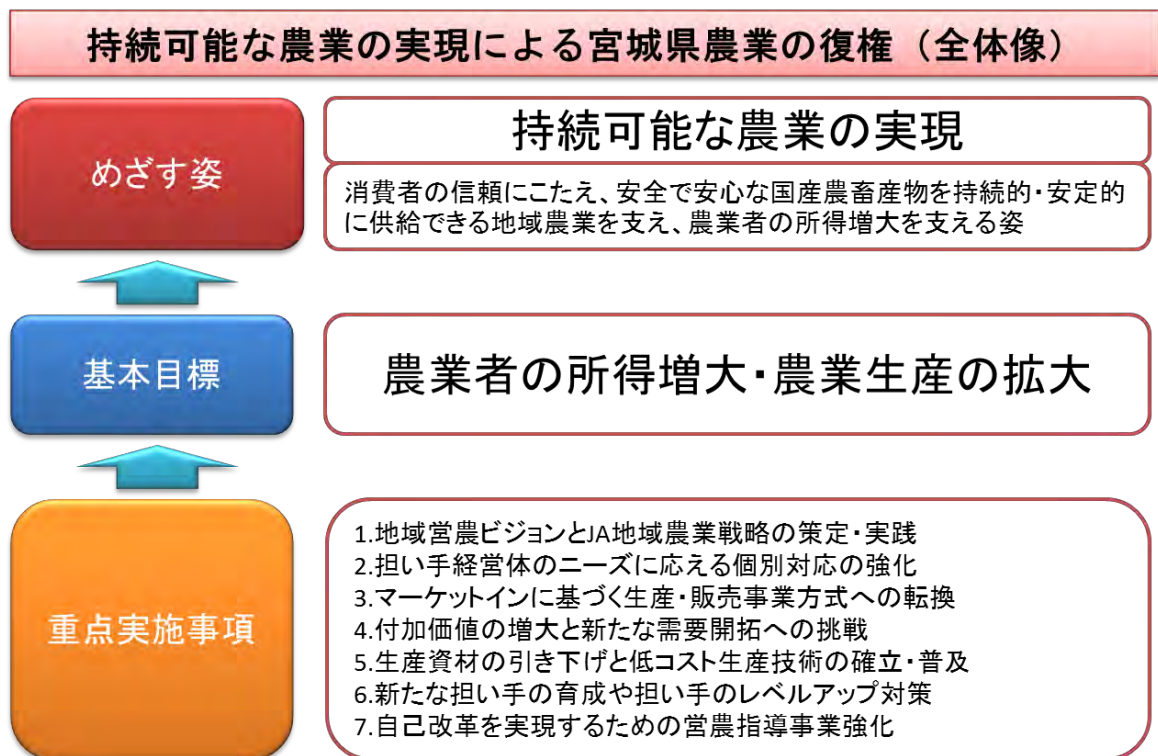


# 持続可能な農業の実現による宮城県農業の復権

～「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」への挑戦～

農業生産基盤が急速に脆弱化していくことが強く懸念される中で、組合員の期待に応えるとともに、安全・安心な国産農畜産物をこれからも安定的に供給し、国民的期待に応えていくため、持続可能な農業の実現を目指して、JAグループ宮城の総力をあげて「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を自己改革の基本目標として取組んでいます。

さらに、東日本大震災から6年が経過し復興は前進しているものの、「風化させない」「継続して取組む」ことを基本的な考え方として震災復興の取組みをすすめています。



# JA 自己改革概要

日本農業や、地域経済・社会の発展を目指す JA グループの自己改革の取り組み



JA グループでは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、相互扶助の理念に基づき、消費者の皆さんへ安全・安心な国産農畜産物をお届けし、農業者の所得増大、地域の活性化を実現するため、様々な自己改革に挑戦しています。これからも、農業のさらなる成長を盛り上げていくため、一層スピードアップをして改革を進めます！



### 農業生産のコスト削減！

The block contains four images in a 2x2 grid, each with a magnifying glass icon in the bottom right corner. The top-left image shows a vast green field under a blue sky. The top-right image shows a 3D bar chart with colorful bars. The bottom-left image shows a red tractor in a field. The bottom-right image shows a green plant growing out of a ball of soil.

農地の規模拡大を推進  
(農地の需給をマッチング)

生産コスト引き下げへの挑戦  
(品質の良いものをより安く)

大口利用者に  
メリットのあるサービス  
(担い手のニーズに対応)

資源の効率アップ  
(農業資材の無駄を削減)

### 儲かる農業を徹底追求！

The block contains four images in a 2x2 grid, each with a magnifying glass icon in the bottom right corner. The top-left image shows sliced watermelon and a bowl of juice. The top-right image shows a globe with the Eiffel Tower and Big Ben. The bottom-left image shows fresh red and yellow produce. The bottom-right image shows two people shaking hands over a document.

付加価値を高める  
(6次産業化を進める)

グローバルな販売展開  
(輸出や海外店舗)

時代に合わせた販売戦略  
(外食等の需要に対応)

経済界との連携強化  
(経団連との連携)



## 地域農業を支える「プロ農家」の育成！



法人化を進めて  
安定経営を支えます  
(集落営農の法人化支援)



新規就農の夢を叶えます  
(新規就農者支援)



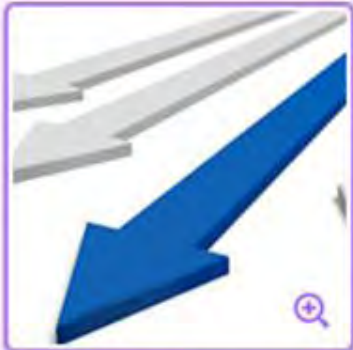
データを活用して  
農業者の経営を支えます  
(営農指導で農業経営管理支援)



JA自ら農業生産を  
担います  
(JA直営の農業経営)



## JAグループの意識改革！



意思決定のスピードアップ  
(営農・経済分野の委員会)



多様な分野のノウハウを  
積極活用  
(専門家の登用)



女性の活躍を積極的に推進  
(管理・経営層への女性の登用)

# JA 自己改革に関連する主な取組み

## 【JA 仙台】

### I. JAの概況（平成29年3月末現在）

- 本店所在地：仙台市宮城野区新田東2丁目15-1
- 組合員数：33,642人  
（正組合員数12,397人、准組合員21,245人）
- 事業取扱高
  - ・貯金残高2,890.9億円
  - ・貸出金残高985.4億円
  - ・長期共済保有高8,851.8億円
  - ・購買品供給高39.6億円
  - ・販売品販売高40.9億円



### II. 主な取組み概要

#### 常勤役員による農事組合法人・集落営農組織訪問

JAでは、農業生産の拡大には法人や営農組織への支援が欠かせないとし、これまで農業生産法人の設立や農業経営管理の支援などを行ってきたが、さらに充実した支援に向けて、昨年9月、菅野育男組合長、藤澤和明副組合長、庄司修営農経済担当常務がそれぞれ管内の農事組合法人と集落営農組織を訪問し、JAへの要望などを聞き取った。

菅野組合長は「JAの自己改革が求められる中、現場の意見に耳を傾け、組合員からの負託にしっかりと応えたい」と話す。

訪問活動は今後も継続して実施する予定である。



## 園芸担当営農指導員による園芸推進作物の試験栽培

J Aの各営農センターでは、園芸担当営農指導員による園芸作物の試験栽培に取り組んでいる。

栽培するのは、各営農センターで栽培を推進しているツルムラサキやカレートマトなどの園芸作物で、J Aの既存施設や組合員から借り受けた遊休農地を活用し取り組んでいる。

農業所得の増大に向けて欠かせない園芸作物の生産力強化を図るため、園芸担当営農指導員が実際に園芸作物を栽培し、肥料や農薬の効果を確認することで今後の推進に向けた栽培技術の研鑽を行っている。



## GAP取得に向けた取り組み～管内初のGGAP認証取得～

J AではG A Pの原則、原理を理解し、適正な農業管理を学習して、農業生産法人や生産部会などの生産性の向上を図ろうと、平成28年に「J A仙台G A P指導者養成講座プログラム」を開催。農業法人の代表者や各地区担当営農指導員らが参加した。

管内の農事組合法人である井土生産組合には個別に訪問し、現場の管理体制について聞き取り調査を実施。実際に圃場を見学し、アドバイスを行ってきた。平成28年11月から翌年1月には、同法人でグローバルG A P取得に向けて毎月研修会を開催。(株)A G I C指導の下、J A職員がG A Pの認証基準を満たすため井土生産組合のメンバーと共に改善策を講じてきた。その結果、平成29年の2月に第三者認証機関の審査を受けて、同年6月にネギの栽培で管内初となるグローバルG A Pの認証取得に至った。



# JA 自己改革に関連する主な取組み

## 【JA 岩沼市】

### I. JA の概況（平成 29 年 3 月末現在）

- 本店所在地：岩沼市中央二丁目 5-30
- 組合員数：3,752 人  
（正組合員数 349 人、准組合員 3,403 人）
- 事業取扱高
  - ・貯金残高 297.8 億円
  - ・貸出金残高 104.9 億円
  - ・長期共済保有高 534.5 億円
  - ・購買品供給高 1.4 億円
  - ・販売品販売高 4 千万円
  - ・青果市場取扱高 8 億円

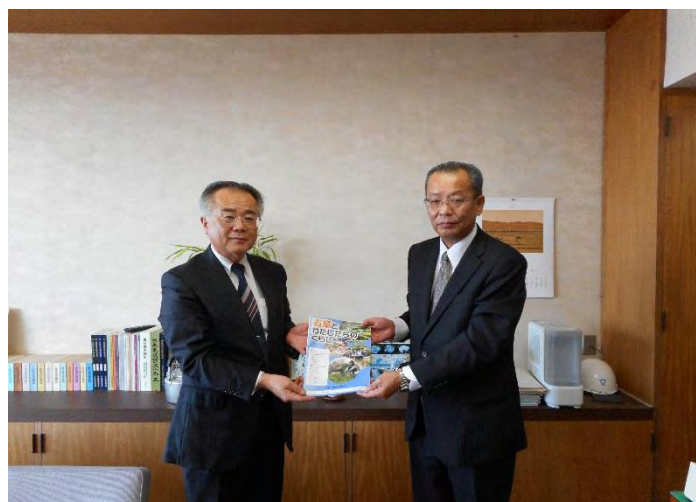


### II. 主な取組み概要

#### 児童へ食農教材を贈呈～食と農の大切さ伝える～

JA は昨年 4 月、農業の大切さを伝えるための小学生高学年向けの食農教育補助教材「農業とわたしたちの暮らし」岩沼市教育委員会へ贈った。

教材は給食を作る過程について学べる構成になっており、教材を通じて食と農の大切さを感じて欲しいとの願い。



百井教育長（左）に教材を手渡す高橋理事長



## 「らくちんGO！」地域住民の足に

昨年度より始めた高齢者向け無料送迎サービス。組合員の約3割が70歳以上を占める管内において、地域住民の足として欠かせない存在となっている。利用者は昨年度183人、今年度は310人を見込んでいる。生活インフラ機能を果たすJAの役割を高めるため、今後も利用者のニーズに対応したサービスを提供していく。

### 【高齢者送迎サービス概要】

JA本支店において金融・共済に関する取引を行う、年金世代の方を対象にした利用者送迎サービス。運行は、祝日とJA休業日を除く月～金曜日の午前9時～午後2時。事前予約制で、前日の午前8時40分～午後4時までにJAに申し込む。

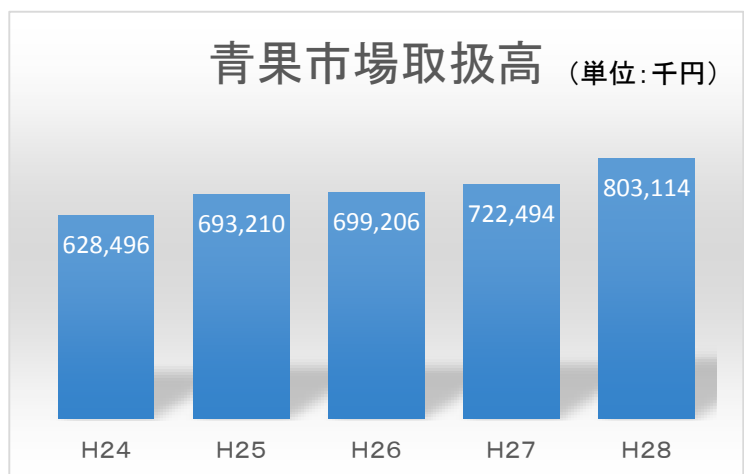


送迎専用車両「らくちんGO！」

## 県内唯一！青果市場の運営

県内唯一となるJAによる市場運営を行い、岩沼を中心に近隣で生産された野菜などの青果を適正な値段で小売店に流通させている。

市場取扱高は年々増加しており、昨年度は8億円に達した。



# JA 自己改革に関連する主な取組み

## 【JA みやぎ亙理】

### I. JAの概況（平成29年3月末現在）

- 本店所在地：亙理郡亙理町逢隈田沢字遠原 36
- 組合員数：5,871 人  
（正組合員数 4,143 人、准組合員 1,728 人）
- 事業取扱高
  - ・貯金残高 660 億円
  - ・貸出金残高 72.9 億円
  - ・長期共済保有高 2,019.8 億円
  - ・購買品供給高 17.6 億円
  - ・販売品販売高 48.1 億円



### II. 主な取組み概要

#### 高校生とレシピ考案～シュンギク消費拡大へ～

J A 逢隈支所野菜部会は、シュンギクの消費拡大を目指し、明成高校の協力を得てオリジナルレシピを作り始めた。

同支所管内のシュンギク面積は 7.2 ha。東日本大震災による津波で 1.8ha で被害を受けたが、現在は震災前の面積まで戻ってきた。復活した産地を今後も発展させるため J A は消費拡大を重視。以前に同校調理課と県産のハクサイのレシピを考案した全農みやぎが仲介し、レシピ検討が始まった。

生徒には栽培体験学習を通じ、野菜を作る楽しさや食べる楽しみまで知ってもらった上でレシピを作ってもらおうと、昨年 9 月上旬には亙理町の農家の畑で種まき作業を体験。

レシピは収穫後、農家の意見を聞きながら検討し、完成後はパンフレットにしてスーパーでの配布などを考えている。



## コンバインオペレーター研修会開催～農作業事故防止へ～

J Aは昨年9月上旬、良質米生産の向上と農作業事故防止を目指し、コンバインオペレーター研修会を開催。大規模経営の担い手農家ら約35人が参加。メンテナンスの方法やチェーンの調整方法について指導し、事故を起こさないよう、安全に作業してもらうための知識を習得し、自ら点検、管理するよう促した。



## ICTを活用したデータ収集～イチゴ収量アップへ～

J Aといちご部会は昨年、収量のアップによる農家の所得増大を目指し、J A全農みやぎの協力を得て、情報通信技術（ICT）を活用したデータ収集に乗り出した。農家10人のハウスに、NECとネポンが共同開発した、パソコンやスマートフォンでハウス内状態を確認できるシステムを導入。温度、



湿度などのデータを集め、収量などと照らし合わせて、時期ごとの最適値を把握し、農家間で共有する。昨年9月以降、データ集めが本格化し、今年8月には1シーズンの数値をとりまとめ、営農指導に生かしていく方針。成果が得られれば、部会内での導入拡大も視野に入れている。

## 自己改革の取り組み状況を組合員へ発信！

J Aは「J Aみやぎ亙理自己改革への取り組み～復興から飛躍へ～」を作成し、組合員に配布。改革の取組状況や今後の取組計画を組合員に伝え、J A事業への理解醸成を図る。



# JA 自己改革に関連する主な取組み

## 【JA 名取岩沼】

### I. JA の概況（平成 29 年 3 月末現在）

- 本店所在地：名取市増田一丁目 12-36
- 組合員数：6,669 人  
（正組合員数 4,954 人、准組合員 1,715 人）
- 事業取扱高
  - ・貯金残高 560.8 億円
  - ・貸出金残高 125.2 億円
  - ・長期共済保有高 2,147.3 億円
  - ・購買品供給高 16.9 億円
  - ・販売品販売高 27 億円



### II. 主な取組み概要

#### 農事組合法人支援の取組み

2014 年 4 月に法人化し、地域農業の受け皿となっている農事組合法人テクノファーム牛野。米や大豆に加え、小松菜やオクラなどを栽培。17 年には初めてカボチャを栽培した。JA は定期的に法人を訪問し相談に乗っている。新品目の栽培や機械導入なども見据えており、今後も継続して支援していく。

同法人の組合長は「JA には栽培時期や作業ごとの悩みを相談している。定期的に来てもらっているのも助かっている」と話し、JA の担当者は「同じ作物でも法人ごとのやり方がある。所得増大へ向け各法人に適した情報を提供していきたい」と全力で支援していく考え。



JA 名取岩沼

## やっぱり市で地域住民との交流

「やっぱり地元の野菜だね」を合言葉に農産物の地産地消や、組合員・地域住民との交流を図る催しを行っている。

2017年度は12月までに本店と支店で計4回開催した。来場者に楽しんでもいただけるような内容をJA職員が企画。地域で生産が盛んな農産物の販売や料理の振る舞いなど、青年部や女性部などの関係組織と連携し店舗毎に実施している。



## 平成30年産以降の水田農業への考え方を周知

これまでの米政策の変遷や、平成30年産以降生産調整が見直された場合の影響について情報を提供し、変化する農業情勢についての学習会を実施。

その際のJAグループの考え方についても生産者へ周知し、農業所得の増大に努めている。



# JA 自己改革に関連する主な取組み

## 【JA あさひな】

### I. JA の概況 (平成29 年3月末現在)

- 本店所在地 : 黒川郡大和町吉岡南3丁目6-2
- 組合員数 : 7,564人  
(正組合員数5,673人、准組合員1,891人)
- 事業取扱高
  - ・貯金残高 442.6億円
  - ・貸出金残高 129.1億円
  - ・長期共済保有高 2,271.9億円
  - ・購買品供給高 29.2億円
  - ・販売品販売高 43.6億円



### II. 主な取組み概要

#### 生産拡大・所得向上に向けた取組み

##### ○ブドウの特産化めざす

遊休期間の長い水稲の育苗ハウスを活用した果樹栽培の複合経営で所得確保を図るため、JAは、ぶどう部会を設立し、「ハウスぶどう」の面積拡大と所得向上を目指している。

部会員は22人。栽培面積は約60a。

同部会では、管理の容易な短梢剪定と無種子化・果粒肥大を促進させるジベレリン処理の栽培を推進している。



##### ○アスパラ栽培講習会

アスパラガスをJAの園芸振興作物の1つと位置づけ、2016年度から新規栽培者を募り、栽培支援を始めており、その一環として栽培講習会を開催した。参加者10人が冬季管理のポイントなどを学んだ。

## 農山漁村振興事業を活用し農泊推進を図る

近年の農業者の高齢化、農地の荒廃が進んでいることが問題化されている。当JAでも例外ではなく、農業の活性化・持続可能な産業を目指し、大和町宮床地区において、JAが事業実施主体となり農山漁村振興事業を活用し、農泊の推進を図るため地域住民と一体となり、事業展開を行っている。

今年度、農泊をビジネスとして実施できる体制を整備するため地域交流マネジメント研修会を始め各種研修会・視察研修会等を開催し、「農泊の魅力」「儲かる体制の確立」「地位の宝の発掘」の理解の醸成を図ることを目的としている。

次年度の計画では、研修会・視察研修会等を開催、新たに、首都圏・仙台圏・在日留学生等を対象にしたモニターツアーを実施し、所得増大・農業の活性化・持続可能な産業に向けた取組みを地域住民と一体となり取り組む。



## JA自己改革の取り組みを組合員へ情報発信！

JAは農業者の所得増大・担い手育成・地域づくりを重点項目として掲げており、それらに向けた様々な取組みを組合員に分かりやすく伝えるため、「JAあさひな営農総合センター情報（自己改革の取組NO.1）」を発行し、JA事業の理解醸成を図っている。

**JAあさひな 自己改革の取組 NO.1**  
**営農総合センター情報 Farming General Center News**

☆ JAあさひな営農販売部では、平成28年度から平成30年度まで、第6次農業振興計画を策定しています。  
 ☆ 重点項目として、**農業者の所得増大・担い手の育成・地域づくり**を掲げています。  
 ☆ 営農販売部の活動を、イメージキャラクターの「あさひくん」が、ご報告いたします。

「あさひな型」農業による農業者の所得増大に努めています。

買客者の要望に応えられる高品質の農産物の生産を目指し巡回指導をしています。

各都県では、農産物や農産加工品を積極的に販売しています。また組合員同士の交流を大切にしております。農産、入部のご相談をお願ひします。

関係機関と一体となり、新たな特産品づくりやブランド化を推進し、栽培技術の向上を図り販路拡大に努めています。

JAあさひな管内で生産されている農産物のPRとブランド化を目指して商品開発を行っています。また、農産物を二次加工することにより農業者の所得増大に貢献しています。

技術指導により農産技術の向上及び増産推進を図っています。山台牛車は、県内トップクラスです。

農産物の省力化を図るため、コンテナによる出荷を行うことにより一タロス低減を図っています。

定期的に展示会を開催し、農業者へ低コスト農業機械を提案し、低コスト生産技術の普及に努めています。

## JAグリーンあさひな（直売所）運営による農業所得増大

JAが運営するJAグリーンでは、JA資材店舗のアンテナショップの役割を果たしている。生産資材の取り扱い強化と安価供給に努め、農家所得の増大に努めている。また、野菜産直コーナー、店頭精米コーナーを設置し、地産地消にも力を入れている。



# JA 自己改革に関連する主な取組み

## 【JA みやぎ仙南】

### I. JA の概況 (平成 29 年 3 月末現在)

- 本店所在地 : 柴田郡柴田町西船迫一丁目 10-3
- 組合員数 : 30,174 人  
(正組合員数 18,629 人、准組合員 11,545 人)
- 事業取扱高
  - ・貯金残高 1,129.9 億円
  - ・貸出金残高 355.9 億円
  - ・長期共済保有高 6,688.3 億円
  - ・購買品供給高 45.7 億円
  - ・販売品販売高 87.1 億円



### II. 主な取組み概要

#### 「宮城蔵王産豊水梨」、ベトナムへ輸出！

JA は昨年 9 月、県下随一の産地である蔵王町の梨「豊水」5 トンをベトナムへ輸出した。日本産梨のベトナム輸出は昨年 1 月に解禁され、県産梨の輸出は今回が初めて。

この日出荷した「豊水」は船便で神奈川県横浜市を出発し、10 月 12 日からベトナムのイオンやコンビニエンスストア等、約 60 店舗に並んだ。

10 月 13 日から 16 日には、JA や県、蔵王町、JA 全農みやぎなどがベトナムのホーチミン市を訪れ、スーパーで試食を振舞いながら現地の消費者に PR を行った。



イオンモールタンフーセラドン店



JA みやぎ仙南



## 地ビール「侍」発売～旅行者掘り起こしへ～

訪日外国人旅行者誘致を目的に、丸森町の訪日外国人旅行誘致会社の(株)侍と連携し、地ビール「侍」を発売。ワイン同様に長期熟成させることで、アルコール度数が13%と一般的なビールと比べ度数が高いのが特徴。別称バーレーワイン（麦のワイン）と呼ばれ、賞味期限は3年に設定。JAの子会社である(株)加工連が仙南シンケンファクトリーで製造を行う。

ボトルで330ミリリットル1,600円（税込）。飲食店向けに15リットルの樽も販売している。



## 自己改革工程表作成～組合員へ取り組み発信～

JAでは、自己改革について9つの重点実施事項を定め実践している。平成29年度からは、より進捗をすすめるべく、中期経営計画および農業振興計画のロードマップを作成し「見える化」して取り組んでいる。

また、JAの自己改革計画とこれまでの取り組みを記載した「JAみやぎ仙南自己改革工程表」を作成し組合員に配布。組合員にこれまでの取り組みを発信するとともに、改革へ一層の支援を呼び掛けている。



JA みやぎ仙南

# JA 自己改革に関連する主な取組み

## 【JA 古川】

### I. JA の概況 (平成 29 年 3 月末現在)

- 本店所在地 : 大崎市古川北町 3 丁目 10-36
- 組合員数 : 10,941 人  
(正組合員数 8,883 人、准組合員 2,058 人)
- 事業取扱高
  - ・貯金残高 599 億円
  - ・貸出金残高 185 億円
  - ・長期共済保有高 2,388.3 億円
  - ・購買品供給高 25.6 億円
  - ・販売品販売高 65.1 億円



### II. 主な取組み概要

#### 新収穫機で初作業 ～えだまめ拡大へ～

えだまめの作付け拡大を目指し、担い手課が管理する圃場で、新たに導入したえだまめ収穫機を使い作業をした。管内の作付け農家も参加し、担当職員が説明しながら 20 アールの収穫作業を行った。

収穫したえだまめは新設した共同調製所に搬入し、調整作業後に出荷した。

J A 契約販売ができることから、2016 年から重点推進品目とし、大豆生産組織等による取組み推進を図っている。

17 年度からは収穫調整の機械化体系を構築。収穫機を貸し出し、J A の調製所で調製し、農家の作業時間の短縮と所得向上に努めている。



## ササニシキ米粉入りうどん「想里（ふるさと）」と 「ふるかわマルマメつゆ」新発売！

J A古川管内産の小麦粉とササニシキの米粉を使ったうどん「想里（ふるさと）」を発売。商品名は、食べてもらう人に故郷への想いを巡らせてもらえるよう「想里」と書き「ふるさと」と読ませた。

「ふるかわマルマメつゆ」は、J A古川管内産の丸大豆を使用した風味豊かで口当たりの良い万能つゆでどんな料理にも使用いただけます。

J A古川生活課で化粧箱 12 袋（1 袋 200 ㌊） 2,800 円（税込）と「想里（ふるさと）」（1 袋 200 ㌊×12）と「ふるかわマルマメつゆ」（500ml×1 本）詰め合わせを 3,200 円（税込）で販売。

他に J Aタウンで化粧箱 6 袋（1 袋 200 ㌊） 2,460 円、12 袋 3,930 円（送料込）で販売。



## 小・中学校等へ食材を無償提供

学校給食を通して地場産品の安全・安心・おいしさを実感してもらおうと、大崎市が行う「地場産給食の日」に協力、市内の小・中学校、幼稚園等へ食材の無償提供を行った。ささ結やキャベツ、ダイコンなど 5 品目の野菜、管内産大豆を使用したみそ、しょうゆを提供。



# JA 自己改革に関連する主な取組み

## 【JA 加美よつば】

### I. JA の概況（平成 29 年 3 月末現在）

- 本店所在地：加美郡色麻町四竈字柵木町 14-1
- 組合員数：7,894 人  
（正組合員数 6,867 人、准組合員 1,027 人）
- 事業取扱高
  - ・貯金残高 473.5 億円
  - ・貸出金残高 98.4 億円
  - ・長期共済保有高 2,478.3 億円
  - ・購買品供給高 40.1 億円
  - ・販売品販売高 78.4 億円



### II. 主な取組み概要

#### 個から集へ、法人化で農業守る

JA管内に2つの農事組合法人が新たに誕生。地域農業の発展と担い手の育成、生産性の向上を目指し活動している。

昨年7月、小野田区域の長清水地区に「農事組合法人長清水」が発足。作業及び機械の共同化により生産性の向上を図り、組合員の所得向上と地域貢献を目的に法人化した。

同年7月には、色麻区域の道命地区に「農事組合法人道命」が誕生。農地の効率的な活用と、担い手の育成、集落全体で助け合える環境をつくることを目的に法人化に至った。



## TAC活動強化のため常勤役員らと情報共有

J Aは、地域の担い手に出向くT A Cの金融・営農担当者、農業機械担当者らと常勤役員との意見交換会を開催した。

管内33の農業法人から集めたJ Aや営農に関する意向調査の結果などを共有。

調査結果では、労働力確保や面積拡大に関する支援、農業施策の情報提供が多く、今後J Aは、ニーズ・方向性を把握し、迅速で的確な対応に取り組む。



## 「よつば未来塾」～新規就農者ら後押し～

J Aは地域を担う若手農家や就農希望者を対象とした「よつば未来塾」を実施している。地元に戻ってきた新規就農者や親元で農業の勉強を始めた若者、加美町地域おこし協力隊ら今年度は11人が入塾。営農に関する課題解決や仲間づくりを後押しする。

入塾式では、「農業協同組合について」「最新技術省力化講習会」の2講座を行った。就農後の営農に役立つ技術を紹介するため、液体散布用のマルチコプター（ドローン）や除草剤散布用の無人ボート・ウオーターストライダーの実演会も開いた。



# JA 自己改革に関連する主な取組み

## 【JA いわでやま】

### I. JA の概況（平成 29 年 3 月末現在）

- 本店所在地：大崎市岩出山下野目字二ツ屋 39
- 組合員数：3,697 人  
（正組合員数 2,717 人、准組合員 980 人）
- 事業取扱高
  - ・貯金残高 134.5 億円
  - ・貸出金残高 23.9 億円
  - ・長期共済保有高 778.1 億円
  - ・購買品供給高 13.7 億円
  - ・販売品販売高 21.9 億円



### II. 主な取組み概要

#### 耕作放棄地を活用し、セリ栽培へ

管内法人の「農事組合法人 葛岡」は地域の耕作放棄地の近くに天然の湧き水があることから、JA 営農指導員の勧めで、耕作放棄地を利用しセリの栽培に取り組んでいる。

約 20 a 栽培している。

17 年 2 月に初出荷し、販売は好調。作付面積の拡大に意欲的である。



## 「ライスパフチョコ」買い求めやすく一新 12 個入りに

ひとめぼれを使用した「ライスパフチョコレート」をリニューアルした。これまでの1箱 20個入り（税別 1,500 円）から、12 個入り（同 600 円）のパッケージに変更。より買い求めやすくした。

リニューアルした「ライスパフチョコレート」は、JAの直売所「メルカド四季彩館」と金融移動店舗の他、県内JAの一部直売所でも販売している。



## 直売コーナー活性化～面積拡大・ベーカリー新設～

購買店舗の直売所コーナーの活性化を図るため、JAの「メルカド四季彩館」は、直売所コーナーの面積拡大とベーカリーカフェを取り組んでいる。



農作物直売コーナー季節の出荷一覧	
1月 1月	小松菜、ねぎ、人参、とうがらし、白菜、ほうれんそう、つぼみ菜、ハム、ソーセージ、キャベツ、ブロッコリー、なめこ、漬物、味噌各種、納豆、みつば、おからドーナツ、生しいたけ、焼なんぼん、竹炭、しめじ、しそ巻き、馬鈴薯、なす、いちご、春菊、トマト、花卉類、ハーブ、京水菜
2月 2月	ねぎ、人参、ほうれんそう、つぼみ菜、ハム、ソーセージ、キャベツ、ブロッコリー、なめこ、漬物、味噌各種、納豆、みつば、おからドーナツ、生しいたけ、焼なんぼん、竹炭、しめじ、しそ巻き、馬鈴薯、なす、いちご、春菊、フルーツマド、レタス、花卉類、ハーブ、たらの芽
3月 3月	ねぎ、ほうれんそう、つぼみ菜、ハム、ソーセージ、パンジー、漬物、味噌各種、納豆、みつば、おからドーナツ、生しいたけ、焼なんぼん、竹炭、しめじ、しそ巻き、馬鈴薯、なす、いちご、春菊、トマト、フルーツマド、花卉類、ハーブ、たらの芽、大根
4月 4月	ねぎ、山菜、ほうれんそう、つぼみ菜、ハム、ソーセージ、パンジー、マリーゴールド、漬物、味噌各種、納豆、ごめい、ふきのとう、おからドーナツ、椎茸、レタス、絹さや、焼なんぼん、竹炭、しめじ、しそ巻き、馬鈴薯、なす、いちご、春菊、トマト、フルーツマド、野菜苗、花卉類、ハーブ、わらび、たらの芽、山野草、大根、チンゲン菜
5月 5月	ねぎ、きゅうり、花卉類、山菜、トマト、なす、ハム、ソーセージ、つぼみ菜、ペチュニア、竹の子、漬物、味噌各種、納豆、うどん、みつば、おからドーナツ、ほうれん草、焼なんぼん、竹炭、大根、しそ巻き、花卉類、いちご、春菊、なめこ、チンゲン菜、椎茸、絹さや、竹の子、ハーブ、せり、みず、フルーツマド、野菜苗、わらび
6月 6月	なす、キャベツ、山菜、トマト、インゲン、ハム、ソーセージ、花卉類、ふき、漬物、味噌各種、納豆、たまねぎ、みつば、おからドーナツ、ほうれん草、野菜苗、きゅうり、焼なんぼん、竹炭、しそ巻き、ねぎ、いちご、春菊、なめこ、チンゲン菜、竹の子、南瓜、インゲン、ハーブ、わらび

# JA 自己改革に関連する主な取組み

## 【JA みどりの】

### I. JA の概況（平成 29 年 3 月末現在）

- 本店所在地：遠田郡美里町素山町 1 番地
- 組合員数：16,142 人  
（正組合員数 12,475 人、准組合員 3,667 人）
- 事業取扱高
  - ・貯金残高 1,037.9 億円
  - ・貸出金残高 238.4 億円
  - ・長期共済保有高 4,796.7 億円
  - ・購買品供給高 52.5 億円
  - ・販売品販売高 116.1 億円



### II. 主な取組み概要

#### 水稻と複合経営で収入確保 ～カルビーとの全量契約栽培・省力重視機械導入を推進～

J A は近年の米の需要減を考慮し、稲作との複合経営品目として加工用ジャガイモを推進し、ポテトチップスなどの原料として最大手メーカーのカルビーとの全量契約栽培につなげた。

水稻と並行して栽培できることと、主産地北海道より早く出荷できる利点に着目した。

収量確保のため、J A は毎年カルビーの担当者を収穫前に現地に招き、圃場を巡回。

圃場ごとに掘り取りの適期を確認し、収穫遅れがないよう指導している。

また、規模拡大にあたっては、J A が県の補助事業にかかる事務手続きを代行するなどし、機械導入（選別機等）による省力化を後押ししている。





## 直播で収量目標達成（萌えみのり成果）

小牛田営農センターは、17年産「萌えみのり」の実績検討会を開催し、10a当たり収量は移植600<sup>kg</sup>、直播が550<sup>kg</sup>となり、直播は管内独自の収量目標540<sup>kg</sup>を達成した。

同センター管内の17年産「萌えみのり」の作付面積は64.9haで前年比144.2%となった。

主食用米の消費は業務用途が3割を超えてきており、今後も高まる傾向。安定品質、収量につながる栽培体系の提案と安定供給体制に努めていく。



## いろいろりレリッシュ新発売！

JAは、管内産の農産物を使用したオリジナル商品「いろいろりレリッシュ」を開発。化学調味料を一切使わず、安全と安心にこだわった商品。

和風の味わいに仕上げた「JAPAN（ジャパン）」、甘酸っぱく味付けした「SWEET（スイート）」、こしょうの辛さを生かした「SPICY（スパイシー）」の3種類を用意。農産物の新たな加工用途開拓で、農家所得の向上が期待できる。

1瓶（130グラム）600円。専用化粧箱入り（3本セット）2,000円。いずれも税別。JA本店及び各支店で販売している。



# JA 自己改革に関連する主な取組み

## 【JA 栗っこ】

### I. JA の概況（平成 29 年 3 月末現在）

- 本店所在地：栗原市志波姫堀口見渡 2-1
- 組合員数：14,806 人  
（正組合員数 11,834 人、准組合員 2,972 人）
- 事業取扱高
  - ・貯金残高 1,002.1 億円
  - ・貸出金残高 183 億円
  - ・長期共済保有高 5,332.6 億円
  - ・購買品供給高 27.6 億円
  - ・販売品販売高 132.4 億円



### II. 主な取組み概要

#### モデル経営開始-「くりこま高原ブランド」確立を目指す

JA は農業従事者の減少や高齢化、後継者不足による農地の荒廃を防ぎ、担い手育成とブランド確立を目指し、2017 年度から「農業経営規程」を設定。農地を借り入れて JA 自ら野菜を栽培し、モデルを実証して普及に移す事業に乗り出した。

第 1 弾として、管内の栗駒山麓開拓地の耕英地区で栽培されてきた「高原ダイコン」の技術や経営の実証を開始。JA 営農部の職員が作業を担い、JA が地元農家から畑約 55a を借り入れ 6 品種を栽培。最適な品種を特定し、機械のコストや販売収入などを精査してモデルを示し、導入を促す。

JA の吉尾三郎組合長は「地理、気候を生かした技術や労力、コスト減技術を実証してブランドを確立し、農家の所得向上につなげたい」と意気込む。

「高原ダイコン」の実証栽培は 3 年間のプロジェクトで、2019 年度まで続ける。その後、別の品目でも実証栽培とモデル提示を目指す。



## 農業振興へ連携協定-ブランド開発など共同研究

JAは、栗原市、東北大学大学院農学研究科と連携協定を結んだ。農産物のブランド化や中山間地振興などの共同研究やイベントの開催、農業、農村の課題解決に貢献する人材育成を進めることとしている。

東北大学が自治体と連携するのは5例目で、この協定にJAが加わるのは初めて。

今後は、米の独自ブランドの開発や中山間地域での新たな作物の栽培、家畜のストレス低減につながる飼育技術の研究などを予定しており、これらの実践をJAが中心となって進めていく。



## 多収米「萌えみのり」需要に応じた作付面積の拡大

JAは、2018年度産の米「萌えみのり」の作付面積を1,000haに拡大する目標を掲げた。

業務用米として引き合いが強く、需要が拡大している点に着目。2018年産からの米の生産調整見直しを見据え、売れる米づくりを目指して10a当たり収量が600kgを超える多収性品種としての特徴を活かしながら2017年産の作付面積400haから2.5倍に広げ、稲作農家の所得向上を狙う。

今後JAは、収量を増やしながら契約栽培で売り先を確保する萌えみのりの生産、販売戦略をさらに加速させる考え。11月下旬には「“ぽっちゃり栗原米”作付推進大会」を開催。生産者など200名が出席し、意思統一を行った。



# JA 自己改革に関連する主な取組み

## 【JA みやぎ登米】

### I. JA の概況（平成 29 年 3 月末現在）

- 本店所在地：登米市迫町佐沼字中江 3 丁目 9-1
- 組合員数：15,981 人  
（正組合員数 13,503 人、准組合員 2,478 人）
- 事業取扱高
  - ・貯金残高 1,281 億円
  - ・貸出金残高 272 億円
  - ・長期共済保有高 6,243.1 億円
  - ・購買品供給高 97.5 億円
  - ・販売品販売高 187.1 億円



### II. 主な取組み概要

#### 寒じめ野菜部会新設-数量まとめ産地拡大へ

JA は 11 月、寒じめ野菜の産地拡大を目指し、「寒じめ野菜部会」を新設した。主力品目であるちぢみホウレンソウは出荷量 40 トン（前年比 13 トン増）、ちぢみ雪菜は出荷量 24 トン（同 11 トン増）の増産目標を掲げた。

これまで管内のちぢみホウレンソウとちぢみ雪菜は、農家が個別に栽培し、JA 経由で市場に販売していた。JA としては、一元出荷で数量の確保をするため、部会を設立することとした。

部会長に就いた秋山広勝さんは「部会員の交流を深め、栽培技術の確立と収量、収入の増加を目指す」と話した。

JA の榊原勇組合長は「部会設立を皆さんの所得向上につなげたい。出荷目標に向かって頑張ってもらいたい」と激励した。



## 米の消費拡大-ササニシキを使った 6 次産業化商品の開発

JAは、秋に 6 次産業化商品の甘酒「大吟醸 糎みるく」を販売開始した。

管内産のササニシキを 100% 使用した米糎発酵飲料。精米歩合を 50%以下にした、まさに「大吟醸」の名にふさわしい贅沢な作りでありながら、アルコールは 0%なので、大人から子供まで飲むことができる。

甘酒は「飲む点滴」と呼ばれ、健康志向の高まりからブームとなっている。「大吟醸 糎みるく」は甘酒を手軽に美味しく楽しめる商品として、県内直売所などで販売している。

190 グラム 280 円（税込）、900 グラム 980 円（税込）の 2 種類を用意している。



## 組合員に取組みを周知-自己改革事例の広報誌掲載

JAは、広報誌『米にけーしょん』にて、自己改革の取組みを紹介している。「つなごう地域農業-豊かな地域社会」をスローガンに、営農・生活福祉・総務など多方面からの取組みを掲載。

営農部門においては、管内農産物のマーケティング活動について紹介。県内外のイベントに参加し、野菜や米のPR・販売促進を実施。消費者から直接得た情報を、ニーズに応える農産物作りのために、生産現場や専門部署にフィードバックしている。



# JA 自己改革に関連する主な取組み

## 【JA 南三陸】

### I. JA の概況 (平成 29 年 3 月末現在)

- 本店所在地 : 本吉郡南三陸町志津川字廻館 97
- 組合員数 : 11,095 人  
(正組合員数 5,461 人、准組合員 5,634 人)
- 事業取扱高
  - ・貯金残高 669 億円
  - ・貸出金残高 145.9 億円
  - ・長期共済保有高 3,192 億円
  - ・購買品供給高 18.9 億円
  - ・販売品販売高 14.7 億円



### II. 主な取組み概要

#### ネギの産地化で地域盛り上げ

輸入野菜から国産回帰の風潮が強まっている昨今、JA は業務用長ネギの産地化に取り組んでいる。業務用は市場出荷に比べ出荷資材や調製が緩やかというメリットを活かし、ゼロスタートから生産にこぎつけている。

東日本大震災からの復興のシンボルとして取り組める作物を検討し、自家用や直売所向けに経験のあったネギを、地域を盛り上げる品目として位置づけ産地化を進めた。

全農を通じて出荷先とのマッチングを行い、海外産から国内産へ大規模な切り替えを行いたい相手とのやりとりを始めた。国産の端境期となる 5~6 月の出荷に対応することで、国産を求める実需者と繋がる。



## 担い手組織の営農支援の充実-販売高の大幅な向上目指す

J Aは、震災後に復興事業の進捗に合わせ、地域営農の中核を担い、農業復興の中心となって営農活動を進めている担い手組織に対し、経営の安定を図るべく総合的な支援を行っている。特に、販売面を中心とした多様な取組みを構築し、継続的な営農活動を重点として活動支援を実施している。また、総合農協としての優位性を生かし、経営の安定を目指した担い手ニーズに対応した取組みを常に中心に据えた活動の展開を図っている。

## 復興イベントへの参加-来場者へ地域農産物をPR

J Aは12月、南三陸町のベイサイドアリーナでキリンググループと日本サッカー協会が開いた「JFA・キリンビッグスマイルフィールド」の南三陸町マルシェに参加し、来場者700人に管内の「リアスりんご（ふじ）」を無料配布した。



イベントは、キリンググループの復興支援キリン絆プロジェクトの一環。マルシェに参加、協力したJ A営農販売課の三浦課長は、「子どもたちの笑顔が見ることができてよかった。地元産のりんごを食べ、元気にサッカーで交流を深めてほしい」と話した。

## 地域活性化へ貢献-小中学校へ助成金

J Aは7月、気仙沼市の小中学校の体験学習活動の支援を目的に、教育委員会を通じて支援金を贈った。また、10月にも、南三陸町の小中学校に贈与を行った。



支援金は、小中学校で、野菜の栽培や地域の緑化活動、防災学習のための活動費に充てられる予定。

# JA 自己改革に関連する主な取組み

## 【JA いしのまき】

### I. JA の概況 (平成 29 年 3 月末現在)

- 本店所在地 : 石巻市中里五丁目 1-12
- 組合員数 : 17,585 人  
(正組合員数 9,990 人、准組合員 7,595 人)
- 事業取扱高
  - ・貯金残高 1,538.1 億円
  - ・貸出金残高 415.5 億円
  - ・長期共済保有高 6,249.8 億円
  - ・購買品供給高 71.1 億円
  - ・販売品販売高 119.2 億円



### II. 主な取組み概要

#### 新ブランド「赤のみり」でトマトをPR

JAは管内産トマトの生産底上げと知名度向上に向けて新ブランド「赤のみり」を立ち上げた。

ブランドの広告塔として、オリジナルキャラクター「みのりちゃん」を制作。出荷用ダンボールを一新し、ブランドのロゴや「みのりちゃん」をあしらった4種類のデザインを考案。

「みのりちゃん」は、インターネット上の交流サイト「フェイスブック」内にJAが開設したページに登場。管内産トマトの情報やレシピなどを発信している。

また、トマトの魅力を綴ったオリジナルソング「トマトの歌」を作成。JA関係者や管内住民が出演するミュージックビデオを動画サイト YouTube に公開した。

石巻地域の復興に弾みを付け、元気なJAいしのまきの姿をPRする。





## 第2回輸出米GAP研修会の開催

J Aは8月29日、輸出米の団体認証取得に向けた第2回輸出米GAP研修会を開催した。管内の輸出米生産者6名が参加し、ASIAGAPへの移行と生産現場の課題について研修した。

グループワークでは、稲作の栽培工程における危害要因を洗い出し、改善・防止策を発表。栽培管理や出荷時の遵守事項として異品種の混入防止などが挙げられ、GAP導入の第一歩として、農薬の安全な保管や作業場の整理整頓を徹底することを再確認した。

今後、J Aでは生産者が取り組みやすい管理マニュアルの作成や現場巡回による統一した管理を行うこととしている。なお、輸出米は平成30年9月に稼動を予定している石巻市鹿又地区の穀類乾燥調整貯蔵施設を利用し出荷する。



## 地域コミュニティ誌の発行-JAの取組みを一般消費者へPR

J Aでは、新たな取組みとして、1月中旬に地域コミュニティ誌「IRODORI-イロドリ-」を発行した。

いしのまき地域の豊かな食材とそれを手掛ける生産者、食材を華やかに飾る飲食店など、地域の「食」と読者を繋ぐツールとして創刊。両面カラー2つ折りのタブロイド判で作成し、管内2市1町の新聞に折り込み、約5万部を配布する。

創刊号の内容については、コミュニティ誌のコンセプト紹介をはじめ、管内の農産物や生産農家の紹介、直売所の案内を掲載。また、J Aの自己改革の取組みについても取り上げている。

四季に応じて移り変わる地域の「食」の魅力を伝え、「暮らし」を豊かに彩りたいとの思いから命名。今後も継続的な発行を行い、J AをPRしていく。